

『あい・ふぁいる』アンケート結果

1. 対象者

堺市内において発達障害者（児）に関わる機関

各区地域福祉課（7）、各区子育て支援課（7）、各保健センター（8）、子ども相談所（1）、市立こども園（19）、民間保育園・こども園（156）、市立幼稚園（9）、私立幼稚園（32）、教育センター（2）、各市立小学校（92）、各市立中学校（43）、支援学校（4）、発達障害者支援センター（1）、障害児等療育支援事業（あい・すてーしょん）（6）、南・北こどもリハビリテーションセンター（3）、総合相談情報センター（1）、各区障害者基幹相談支援センター（7）、障害児通所支援事業所（児童発達支援事業/放課後等デイサービス事業所/保育所等訪問支援事業所）（224）、障害福祉サービス事業所（105）、障害児相談支援事業所、特定相談支援事業所（52）

2. 回収率

【回収率】 44.2% （342件／774件）

3. 結果の概要**1. 『あい・ふぁいる』を知っていますか？の質問について**

「知っている」が81.9%と8割の支援者が知っていると答えた。また、「聞いたことがある」と合わせると9割の支援者に認知されていることが分かった。

2. 「あい・ふぁいる」を知ったきっかけは何ですか？の質問について

「関係課から保護者に渡すように言われた」が44.0%と4割以上であり、次いで「活用セミナーに参加した」が27.0%、「その他」が20.2%と続いた。「その他」については、あい・さかいサポーター研修時に知ったという回答が多くあった。

3. 既に「あい・ふぁいる」を作成・利用している児童、もしくは本人の支援に関わったことがありますか？の質問について

「支援したことがある」が44.8%、「支援したことがない」が55.2%という回答が得られ、支援したことがある関係者となない関係者で約半分に分かれる結果となった。

4. 支援した児童、もしくは本人の年齢はおいくつですか？（複数回答可）の質問について

「就学前」が35.0%と一番多く、続いて小学校低学年が29.3%、小学校高学年が16.6%という割合となり、中学校は12.1%、高等学校では5.1%、成人期以降は1.9%という結果となった。このことから、「あい・ふぁいる」を活用している保護者（本人）の年齢の割合は、小学校以下が8割となっていることがわかった。

5. 「あい・ふぁいる」を保護者に薦めたことがありますか？の質問について

「薦めたことがある」が62.9%「薦めたことがない」が37.1%という回答の結果とな

った。

6. 今後も「あい・ふあいる」と保護者に薦めていきたいとしますか？の質問について

「薦めたいと思う」が 88.5%と多く、「薦めたいと思わない」が 11.5%という回答であった。「思わない」と回答されたうち、幼稚園・保育園・こども園の支援者の理由として「どのように薦めていけばよいかわからない」「デリケートな問題なので薦めにくい」「幼児期は、障害なのか発達がゆっくりなのか判断がつきにくい上に、支援＝障害児と受け止められがちで、保護者の心情を考えると薦めにくい」という理由が挙げられていた。また、中学校から成人以降の支援者からは、「〇〇（以前の所属先）で渡されていないければ、いきなり薦めることは難しい」「年齢を重ねる程、記憶が曖昧であったり書く量が多くなったりするため、振り返ることが辛いという話を聞いた」という理由が挙げられていた。

7. 利用・活用しづらい点やお気づきの点があれば記入してください、の自由記載欄の回答について

「あい・ふあいる」を活用して良かった点として、「どの年齢からでも使用できるよう、同じシートが準備されているので使いやすかった」「本人に対する保護者の希望や思いを知ることができるいいものだと思った」「成長を残せるところがよい」「支援中学部に行く児童については、活用できてよかった」という意見が聞かれた。

一方、今後に向けて改善していくべき点もいくつか挙げられた。「あい・ふあいる」自体についての意見として、「大きく、重い」「気軽に持ち運びにくい」「サイズがもう少し小さければよい（B5や母子手帳サイズ、など意見はさまざま）」「インデックスが初めから付いているものがより使いやすいと思う」「インデックスが後付けなので、年代別のシートの区分が分かり辛く、なかなか書けない保護者が多い」「クリアポケットも挟んでもらっているとよい」「記入欄が小さすぎる」などの意見が挙げられていた。

保護者については、「あい・ふあいる」の存在や意味、メリットを理解していない」「日々の生活に追われ、必要性を感じていてもなかなか利用まですすまない」「初めは記録していたが、忙しさでそのままになっていることが多い」「こんな先のことまで考えたくない、と言われた」「長期的な視点を要するファイルなので、見通しの持ちづらい保護者には持続させるのが難しい」「記録する部分が多い」「文章を書くことが苦手な家族もいる。〇を付けるだけ、アンケート方式、などの方がよいと思う」「力のある保護者にしか使いこなせない。また、力のある保護者は既に自分なりに成長を記録されているため、途中から違う方法でまとめようとは思われなかった」との意見が挙げられた。

支援者としての意見として、「支援する側が活用の仕方を詳しく知らない」「利用・記録することの有効性が見いだせていない」「活用してほしい保護者がいてすすめても、実際利用するとなるとかなりの支援が必要になることも。そうすると時間をかけた丁寧な支援が必要となる」「進学時の申し送りでは、実際このようなシートを使うことはない。個別支援計画やアセスメントシートのコピーを渡してファイルしておくように伝えている」「この情報がどのように役立つのかわからないので、書き方や書いたほうがいい内容も見当がつかない」「誰が主体となって活用するのがわかりません」などの意見が挙がっていた。

8. 「あい・ふあいる活用セミナー」があることを知っていますか？の質問について

「知っている」という回答が 57.1%あり、6割近くあり、「聞いたことがある」の回答が

18.8%と続いた。一方、「知らない」という回答も24.0%とあり、あい・ふあいる自体の認知度より低いことがわかった。

9. 「あい・ふあいる活用セミナー」に参加したと思いますか？の質問について

「参加したい」が18.9%、「できれば参加したい」が53.5%の回答があり、参加の希望は7割以上あった。「希望しない」の回答は27.6%あった。

10. 「あい・ふあいる出前セミナー」があることを知っていますか？の質問について

「知っている」が27.7%、「聞いたことがある」が18.8%という結果となり、支援者への認知度については「あい・ふあいるセミナー」より低いものとなった。「知らない」という回答は24.0%であった。

11. 「あい・ふあいる出前セミナー」に参加したいと思いますか？の質問について

「参加したい」が9.4%、「できれば参加したい」が50.2%という結果となった。「参加の希望はない」という回答は40.4%であった。

4. 考察

今回の調査により、「あい・ふあいる」自体の認知度は非常に高いことが結果として示された。その一方で、「あい・ふあいる」の利用目的である“支援をつなぎ広げるためのツール”として実際に活用されているかどうかについては問題点もあることが明らかになった。

1つ目は、「あい・ふあいる」自体の問題が挙げられる。支援者から渡された書類をファイリングするためにはA4サイズのファイルの大きさは必須となるため大きさの変更は難しいとしても、クリアファイルポケットを挟んでおく、インデックスを貼っておく（困難な場合はインデックスシートを利用する）など、改善の余地はあると考えられる。

2つ目は、保護者の要因である。継続的に活用するにあたり、保護者の作成する力の有無が大きく影響される。また、作成する力がある場合であっても、継続的に活用し続けるためには、活用するための理由やメリットが明確でなければ頓挫しやすいと考えられ、そのためには、内発的なモチベーションに加え、外からの支援が必要と思われる。

3つ目には、支援者の要因が考えられる。支援者自身が「あい・ふあいる」の知識が乏しいこと、「あい・ふあいる」を保護者と共に製作するための必要な時間がとれない、という点が挙げられた。更に、保護者の要因と重なったものとして、活用するための理由やメリットが明確でないという意見が挙げられたことも問題点として挙げられる。実際に、「保護者+αのあい・ふあいるセミナーの受講の仕方ではなく、堺市全体の教育機関や福祉機関での周知をしていくほうが、より活用できると思われる」との意見が挙げられた。実際、保健センターからも「あい・ふあいるセミナーを受講したい」との意見が挙げられたこともあり、保護者へのセミナーに加え、福祉・教育機関への周知に力を注ぐ必要性を感じた。更に、関係者に「あい・ふあいる」が周知されにくい要因として、2. 「あい・ふあいる」を知ったきっかけを尋ねた質問に対して「関係課から保護者に渡すように言われた」という回答が44.0%となった結果が繋がるのではないかと考えられる。その点については、「あい・ふあいる」の配布と共に、「あい・ふあいる活用セミナー」の告知も合わせて行うことが効果的と思われる。「あい・ふあいる」という“バトン”を持つ主体はもちろん保護者であるが、二人三脚で伴走者として走る支援者への啓発が今後の課題と考えられる。そのた

め、今以上に「あい・ふあいる」を啓発する担当課が、支援者への周知・理解を広めていく必要があると思われる。